



銚子ジオパーク推進 市民の会ニュース

第75号 2017年10月19日 発行

連絡先：茂木（090-8947-2869）

HP：http://choshi-geopark.com

双葉小学校児童が地層学習

松家英彦

10月11日朝、少し霞がかかった屏風ヶ浦で双葉小学校6年生（2クラス48名）を対象とした学習支援活動が行われました。

学習内容は6年生理科の学習単元「土地のつくりと変化」で屏風ヶ浦の地層についての現地学習と市民の会によるガイドツアーです。

地層学習は推進室の岩本さんが担当され、ガイドは宮内敏さん、新井野さん、白土さんそして私です。

私と新井野さんが6年一組を担当し、2班に別れそれぞれガイドを実施しました。私は今回の活動には初参加であり、また、説明時間は移動も含め20分という短時間で小学生に興味を持って聞いてもらえるかと些か不安でした。

地層にできた鳥の巣穴の説明をしている時に、女の子が「ああ、

あそここの岩に青い鳥

（イソヒヨドリ）のオス（イソヒヨドリ）が止まっている！先生こっちは来て下さい！」と叫んで、生徒たち皆が何処何処と大はしゃぎとなり、私も実物を見たことがなかったので、ガイドを忘れ思わず見とれてしまいました。

また、男の子が「あそここの崖にカニが歩いている！（カニガニ）」

「あんな高いところも歩くんじゃすごい！」と大変感心した様子。穴の説明の流れで防空壕の説明に移り、そして、これで時間となりました。実は穴の説明時に共役断層の説明を予定していましたが、子供たちの歓声に流されうっかり忘れてしまいました。

今回はこの経験を活かし、しっかりと説明のポイントを押さえ、ガイドをしたいと思いましたが、屏風ヶ浦の崖に止まった青い羽と胸元

がオレンジ色のイソヒヨドリは大変美しく、生徒たちの記憶に残ることでしょう。そして、自分たちの郷土である銚子が素敵な所であると思ってくれば良いなあと思いました。

余山貝塚を説明

藤身 隆雄

11日は屏風ヶ浦の他「銚子の自然災害について」と「銚子の昔の生き物」の講座がありました。

午後、余山貝塚の見学学習を2度にわたり実施しました。余山貝塚の概要を内匠さんが、発掘の話を私が担当しました。2014・2015年発掘の時に出土した遺物の内整理した一部を展示し、子供たちが熱心

ジオガイド余話 「銚子の風」

宮内 秀
熊さん「今日は風が強いね」

「風が強いね」といふ風じゃないかな。ところで熊さん、風ってなんだろうね。熊「えっ！そんなあたりまえのことを...」

「空気の流れ」が風なんだよ。熊「そうなのか...」

「隠居」水の流れで考えるとわかりやすいのだが、水の流れは障害物があると渦ができて乱されて、遅くなるだろう。空気の流れ、つまり風も同じで、海の上を流れる空気は障害物が無いので陸の上と比べると乱れが小さく速いんだよ。熊「うんうん」

また風速が毎秒10m以上となる強い風の日数は「1年間に143.3日」あるんだ。熊「だから銚子の台地には、自然エネルギーの「風」を利用した風力発電の風車が数多くあるんだな」

「隠居」今、地球温暖化が深刻な問題となっており、その防止対策が国際的な課題でもある。自然エネルギーを利用した風力発電はとても良いのだが、陸上の風車には騒音などの問題が付きまとい避けられない。そこで海の上の風を利用して発電する「洋上風力発電」の実験施設が銚子の沖合い3km余りの場所にある。研究が進められている。その成果が期待されるね

今月の俳句

秋空に これからどこえ カラス2羽
秋日和 タバコをくゆらす 怪しい女

保立 得造



余山貝塚出土の注口土器